

ACCESS

JR中央線 武蔵境駅 南口から乗車、約8分

② 番のりば：国際基督教大学ゆき 境93

③ 番のりば：狛江駅北口ゆき 他 境91

④ 番のりば：吉祥寺駅ゆき 他 吉01

JR中央線 三鷹駅 南口から乗車、約15分

⑤ 番のりば：国際基督教大学ゆき 他 鷹51

京王線 調布駅 北口から乗車、約20分

⑭ 番のりば：武蔵境駅南口ゆき 境91

⑭ 番のりば：三鷹駅ゆき 鷹51

小田急線 狛江駅 北口から乗車、約45分

① 番のりば：武蔵境駅南口ゆき 境91



東京神學大學

〒181-0015 東京都三鷹市大沢3-10-30
TEL：0422-32-4185 FAX：0422-33-0667
E-mail：tuts@tuts.ac.jp
URL：https://www.tuts.ac.jp



東京神学大学の校章は、ギリシャ語で神学を意味するテオロギア (theologia) という単語をデザインしたものです。テオロギアとは、テオス (theos：神) についてのロゴス (logos：言語・学問) という意味です。



大学認証評価

東京神学大学は、2019年度に公益財団法人大学基準協会の大学認証評価を受審し、同協会の定める大学基準に適合していると認定されました。

東京神学大学では、11月・2月・3月に入学者選抜を行ないます。
学生募集要項の請求・お問い合わせは教務課入試係まで。

東京神学大学
学校案内 2024



TOKYO
UNION
THEOLOGICAL
SEMINARY

ただ、神の召しによって

こうじろ まさみ
学長 神代 真砂実



「職業」をどのように選ぶでしょうか。選ぶ基準は、いろいろと考えられるでしょう。自分の好みや素質を第一に考える人もあると思います。自分の得意なことを伸ばせる職業を、というわけです。けれども、職業を選ぶ理由は他にも考えられます。収入の見込みはどうか、つまり、おカネになるかどうかということが最優先という場合もあるでしょう。あるいは、きちんと休みがとれるかどうか、つまり、趣味や家族のために時間を使う余裕がありそうか、などといったことで職業を決めることもあるかもしれません。そして、もちろん家族や学校の先生といった、周囲の人々の助言によって決まるという場合もあるでしょうし、家業や家系という環境で決まってくることもあるでしょう。「医者の家系」「教師の家系」などと言ったりするようにです。「家系」と言うと大袈裟になりますが、親の職業を自分も選ぶということも確かにあるに違いありません。

しかし、伝道者になる・牧師(キリスト教学校の聖書科の教員も含め)になるということについて言えば、そういった要素は度外視されます。牧師というのは——私たちが自分で選びとり、自分の才能と力を注ぎこむというような——普通の意味での「職業」ではありません。牧師の仕事は、神様から召され、与えられた仕事です。つまり、召命によるのです。この、召命が決定的であるというところで、世の中の一般の職業と牧師とは区別されます。

多くの人たちが、召命を感じたとき、「まさか自分が」と思うのではないかと思います。それまでの人生設計や思い描いていた道が神様によって断ち切られて、召しは届くのですから。だからこそ、モーセやエレミヤのように抵抗することもあります。しかし、神様の御心は成就します。——神様からの召しが、あなたに届いてはいませんか？

入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

東京神学大学は、現代の教会に仕える伝道者、またキリスト教学校やキリスト教施設等に専門的知識を持って仕える者を養成するために、以下のような学生を求めます。

- 1 召命を確信し、献身の姿勢が明確である者
- 2 公同的な福音主義的信仰を告白する者
- 3 主体的な信仰生活に身に付いている者
- 4 基本的なコミュニケーション能力を身に付けており、伝道者としての人格の形成を望む者
- 5 高校卒業程度の基礎学力を有し、論理的思考ができる者

Contents

P.02	学長メッセージ
P.04	東京神学大学の学び 四つの学びの分野 / 学びの流れ
P.06	教員座談会
P.10	教員紹介
P.12	学びの特徴
P.16	キャンパスライフ
P.18	キャンパスマップ
P.19	データで見る東京神学大学

東京神学大学の学び

四つの学びの分野

神学に欠かせない四つの領域をバランスよく学ぶ

神学は、ギリシャ語ではテオロギアといいます。神(テオス)についての言語・学問(ロゴス)という意味です。しかし、神学は人間の知恵に基づいて神を認識する学問ではありません。神ご自身がイエス・キリストを通して自らを啓示されました。この出来事なしに、私たちは神を知ることはできません。このような神の啓示を前提として、それを謙虚に受け止め、神の言葉に真摯に耳を傾けるところから神学は出発します。

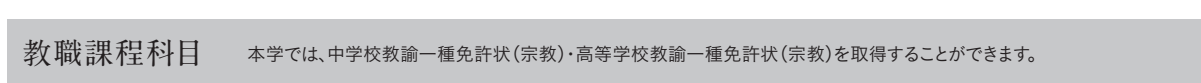
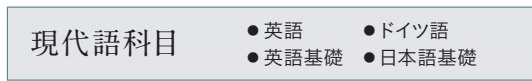
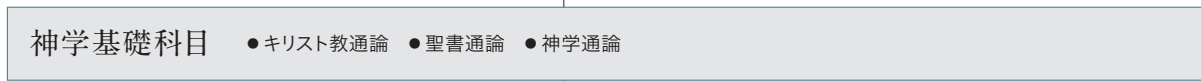
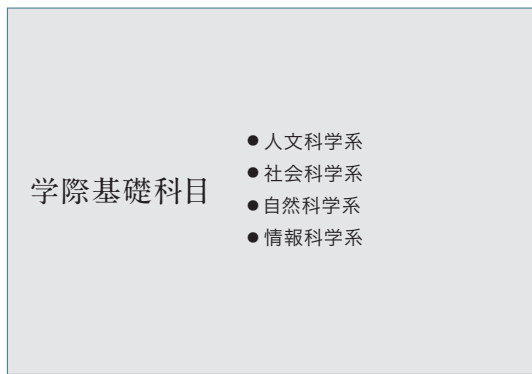
キリスト教の歴史を通して、神学はいろいろな仕方で展開されてきました。現代神学においては、聖書神学・組織神学・歴史神学・実践神学という四つの研究領域のもとで神学という学問が営まれています。東京神学大学では、これらの四領域をバランスよく学べるよう、カリキュラムが組まれています。



学びの流れ

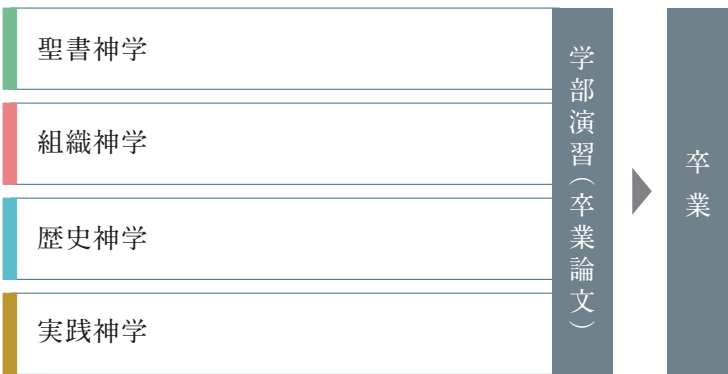
学部1・2年次

神学校での学びは、キリスト教信仰および聖書についての初歩的な知識の修得からスタートします。学際基礎科目では、多彩な講師陣が学びを支えます。また、神学の学びに欠かせない英語やドイツ語の基礎力も養います。留学生を対象に日本語の授業も開講されています。



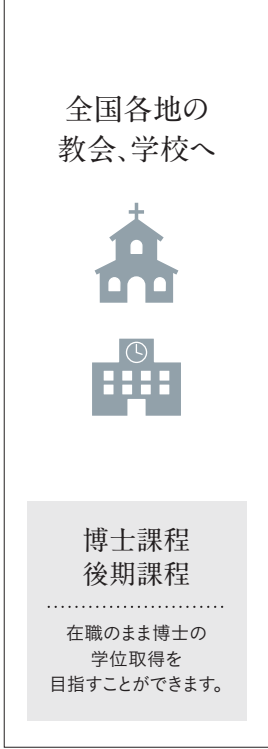
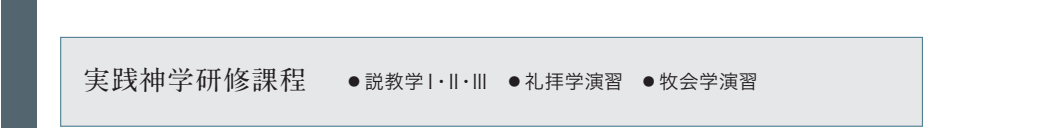
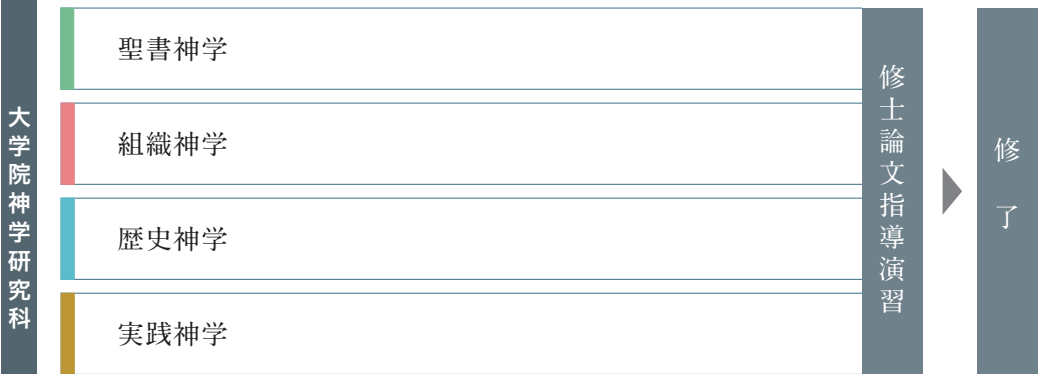
学部3・4年次

専門科目の履修を通して、聖書神学・組織神学・歴史神学・実践神学の四分野を徹底的に学びます。特定の分野に偏ることなく幅広い知識が修得できるようカリキュラムが組まれています。また、神学書の講読を通して、語学力と神学的思考の更なる向上を図ります。最終学年では卒業論文を執筆し、博士課程前期課程に進むための備えがなされます。



博士課程前期課程

博士課程前期課程の授業は、専門的な知識を深めるために講義形式で行なわれるものと、主体的に神学する能力を養うために演習形式で行なわれるもの、その両者を組み合わせたものがあります。さらに、神学校での学びの集大成として、修士論文を作成します。修士論文提出後は、実践神学研修課程において、実践に関わる極めて具体的な諸課題・諸問題についての取り組み方を学ぶことで、伝道者としての職務に必要な実践的な知識をも身に付けます。



多彩な講師陣による学びの支え

本学は、多くの非常勤講師によって、その教育活動が支えられています。神学に関する授業においてはもちろん、学際基礎科目の学びにおいても、それぞれの分野において優れた業績を上げておられる先生方が授業を担当してくださっています。そして、すべての先生方がキリスト者であります。少人数のクラスで、こうした一流講師の授業を受けることができるという点は、本学での学びの大きな魅力です。



非常勤講師 角田 誠

私は分析化学の研究者です。生体分子の分析を通じて、生命現象や疾病の原因解明に取り組んでいます。血液や尿などに含まれる生体分子は、肉眼では「見えないもの」であり、私の仕事はこれらの「見えないもの」を見えるようにすることです。2020年からは、東京神学大学で学際基礎科目の非常勤講師を務めており、「化学入門」という講義で化学について教えています。この講義では、社会問題を例に取りながら、「見えないもの」が何であり、それをどのように見るかについて学んでいます。

昨年の振起日礼拝で、神代学長は『「見えないものに目を注ぐ」(コリントⅡ4:18)生き方、それが信仰である』と述べられました。召命を受けた学生たちと共に、自らも見えないものに目を注ぐ信仰によって生きることができるよう、主の導きを祈ります。

PROFILE

東京大学大学院薬学系研究科博士課程中途退学。薬学博士(東京大学)。現在、同研究科准教授。日本基督教団経堂北教会員。18歳にて受洗、24歳から長老。6代目クリスチャン。

司会
中野実 教授

組織神学
須田拓 教授

実践神学
小泉健 教授

聖書神学
矢田洋子 特任常勤講師

歴史神学
本城仰太 准教授

教員座談会

「命」というテーマに 神学はどう アプローチするか

東京神学大学では、神学の四つの分野である聖書神学・組織神学・歴史神学・実践神学をバランス良く学べるようカリキュラムが組まれています。今回は、それぞれの専門分野の教員に、各分野の特徴、「命」というテーマへのアプローチ、分野の強み・弱点・魅力について語ってもらいました。

四つの分野の特徴

中野 専門分野の先生方に集まっていただきました。東神大の教育の一つの特徴は、神学の四つの分野をバランスよく学ぶことです。それぞれの分野の特徴を多くの人に伝えたいという思いで、この座談会を企画しました。早速ですが、須田先生、組織神学の特徴を説明いただけますか。

須田 組織神学は、聖書のそれぞれの箇所が一体どのようなことを語っているのか、私たちに何を伝えているのかを分かったうえで、神様がどんな御方で、何をしてくださっているのかを論理的に説明しようとする分野です。神様は初めに天地をお創りになり、私たちをもお創りになり、救いの御業をなし、教会を建て、やがて神の国へと終末へと導かれる。このように神様が何をしてくださっているのか、論理的にまとめて語ろうとするのが組織神学です。

中野 小泉先生、実践神学はどのような特徴を持った分野でしょうか。

小泉 東神大の学びの特徴はバランスよく全体的に学べるということがありますが、学部では実践神学の学びは少ないですね。他の神学諸科の学びが前提になって、それらを総合するものとして実践神学があるからです。実践神学以外のことをきちんと学んで、それらを踏まえて、生きることや伝道することに繋げていくことが、実践神学の役割だと思っています。

中野 矢田先生、聖書神学はいかがでしょうか。

矢田 聖書神学は、それぞれの聖書箇所解釈を吟味するための分野です。聖書の言葉を受け取るとき、人間の言葉という側面から、無意識であっても必ず解釈を伴います。その解釈が本当に聖書に沿っているのか、歪んでいないか、様々な視点で解釈を検討します。聖書箇所が何を伝えようとしていたのかを見極めるため、聖書の書かれた言語、旧約はヒブ来語、新約はギリシヤ語での意味を検討し直すこともします。

中野 本城先生、歴史神学はどのような学問でしょうか。

本城 須田先生から「神様がどのような御方か突き詰めて考える」といったお話がありました。このことは、2000年にわたる教会の歴史の中でも問われてきました。歴史の中で教会の人たちが様々な議論を交わしながら、突き詰めて考えることで、正しい信仰が定まってきました。そのような歴史という光を照らして、教会の歴史を読み解いていくと、今の私たちの考えている問題は、歴史に根差しているということが分かってきます。だから、今を考え、これから先の将来を考えていくに際して、歴史神学の学びは必要だと思っています。

「命」へのアプローチ

中野 それぞれの専門分野の特徴をお話いただきましたけれども、もう少し具体的にイメージするために、今回は「『命』というテーマに、それぞれの分野はどのようにしてアプローチするのか」という難問を皆さんに突きつけてみました。須田先生から、ご紹介いただけますか。

須田 先ほど申した天地創造から終末に至るまでの神様がなお築きになる歴史、この中に「命」がどのように出てくるのか、全体を俯瞰的に見られるというのが、組織神学の特徴だと思います。そもそも命自体が神様によって創られます。神様によって命を創られ、命を保たれ、そして生かされている私たちですが、しかし、聖書は私たちの罪深い姿を描きます。私たちの命がどれだけ神様から離れてしまうか、でも、神様はその命を憐れまれるということも、見えてくるわけです。そして、私たちの罪深い命のために、キリストの命が犠牲にされ、罪の赦しが与えられると同時に、神様が私たちの罪に穢れた命を創りかえらるということも聖書から教えられます。私たちは洗礼を受け、キリストに結ばれ、神の子として新しく生まれ変わります。そして、永遠の命の約束を受け、世の終わりによみがえって、神の国に永遠に生きる命へと続いています。このように、組織神学の分野からは、聖書の特定箇所の事柄だけでなく、天地創造から終末に至るまで、私たちの誕生から死、それを超えたよ

みがえりに至るまで、どれほど私たちの命が神様の愛と憐れみのうちにあるかということを、より深く明らかにすることではないかと思います。

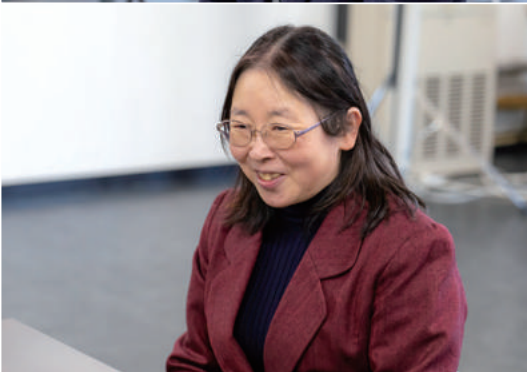
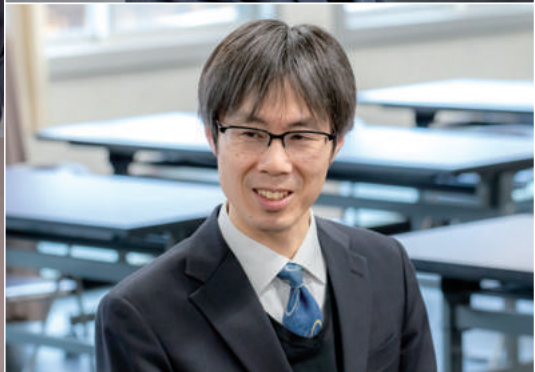
中野 次に、小泉先生お願いします。

小泉 教会の具体的な実践の中では命と向き合います。しかし、人間的な思いやりや知恵で命を助けようとしてしまうと思うんです。だからこそ、聖書神学・組織神学・歴史神学から教わる「命」というテーマを踏まえたうえで、それが本当に具体的に受け取れるように、あるいは手渡せるように考えるのが実践神学だと思います。須田先生のお話に出てきたように、まず大事なものは、イエス様の命が教会の中で、きちんと伝承されていくことです。教会がキリストの体だということ、そこにキリストの命がないといけません。その命は教会で健やかに伝えられていき、そこにキリストが生きてくださるようになります。それを教会の営みとして、具体的に展開していきます。聖書を読むことによって、説教をすることによって、信仰告白をすることによって、キリストの命を伝えていくわけです。このように神学諸科で学んだことを具体的な教会の営みに活かしていきます。そして、その命を一人一人にきちんと届けたいので、永遠の命の言葉を語る説教になり、生きることを支える牧会になります。そして、キリスト者らしく生きることを教える、キリスト教教育になります。本当に真の命を得ているということを一人一人が具体的に受け取れるように、受け取れるまでに手渡そうとする営みが実践

神学です。

中野 聖書神学はどうでしょうか。

矢田 聖書神学で「命」を考えるときに欠かせないのは、原典のヒブ来語やギリシヤ語で「命」の意味を持つ語が、どこにどのように用いられているかを調べることです。ヒブ来語で「命」を意味する語は「ハイ」、「ハッイム」（いずれも動詞「生きる」の名詞形）、「ネフェシュ」（喉、その人自身、魂という意味も持つ）がありますが、それらの多くは神様とセットで出てきます。命は何よりも神と直結したものだと言えます。人間の命については、創世記2章に、神様から「命（ハッイム）」の息を吹き込まれて、「生きる者（ネフェシュ+ハイ）」となったと書かれています。人間は、神の息が入っていれば生、神の息がなければ死んだ状態ということです。また、命は神様の祝福と、死は裁きや罪とセットになっていることも多く、申命記では、戒めを守って神様との関係が良好で祝福された状態のことイコール「生きている」「命」と語られています。旧約で「命」とは、神様との関係がしっかり結ばれていることだと言えそうです。新約には、「私が生きているので、あなたがたも生きることになる」（ヨハネ14:19）、「永遠の命」とは「イエス・キリストを知ること」（ヨハネ17:3）だと書かれていますが、まさにこれは、「命」とは、神様との関係がちゃんとしているのだという旧約聖書の考え方そのものだと言えると思います。



中野 歴史神学はいかがですか。

本城 矢田先生がヨハネの福音書を挙げてくださいました。「イエス・キリストを知ること」が「永遠の命」だ、と。その聖書箇所を読んで、またその聖書箇所を受けて、生きてきた人たちが2000年の歴史の中にたくさん存在しました。絶えず、ある意味では命の問題と関わりを持ちながら、生きていたと思うんですね。そのような人たちが残している史料を読み解きながら、当時の人たちが、何をもち、どのように命を考えて、生きていたのかにアプローチしていくのが歴史神学のやり方です。例えば、最近、新型コロナウイルス感染症が流行しましたが、宗教改革の時代などには、ペストが流行して命の大問題が起きました。そのような中で、教会の人たちがどのように考えたのかは、マルティン・ルターの「ペスト書簡」から窺うことができます。ルターは「ペストが流行した地域に留まるべきなのか、逃げていいのか」という質問を受けた時、「その地域の人たちに御言葉を語って、牧会していくための人数は残さないといけない。但し、人口が減っているのならば、たくさん牧師を残す必要はない」と回答しているんです。このような歴史的な出来事には、歴史学としてもアプローチすることができます。ただ、御言葉を語って聖餐にあずかる人たちは必ず残さないといけない、というように、教会の問題として考えていたところに、ルターなりの答えがあります。単なる歴史学ではなく歴史神学として学

問を行なうというのは、まさにこのようなところに表れていると思います。

強みと弱点、そして魅力

中野 それでは次に、それぞれの分野の強みと弱点について話していただき、最後に、ご自身の専門分野の魅力をアピールしてください。須田先生からお願いします。

須田 私たちは礼拝で説教を聴き、御言葉を聴きます。組織神学を学ぶことで、「私は何を聴いてきたんだろうか」ということが、はっきりしてくると思います。また、「教会で何が起きているのか」・「私に何が起きているのか」といったことも、学びを通して確信を与えられていくのではないかと思います。ただ、組織神学は、聖書全体のメッセージを前提に、それを論理的に再構成しようとするから、特定の聖書箇所にしかない独特のメッセージをきちんと聴き取ることが疎かになってしまう可能性もあります。私たちの言葉では神様を完全に言い尽くすことはできません。そのことを忘れずに取り組むことが、組織神学を学ぶうえで大事なことであり、また弱点だとも言えます。しかし、組織神学を学ぶことで、私たちは一体何を信じてきたのか、私たちはどこを目指して歩むべきなのかといったことを論理的に考え、説明できるようになります。信仰生活を豊かにするために、そして、福音を確信して、それを述べ伝える志をさらに強められ、深められていくためにも、ぜひ組織神学を学ん

でいただきたいと思います。

中野 実践神学はいかがでしょうか。

小泉 実践神学は、言うまでもなく魅力があると思っています。それは教会生活や信仰生活と結びついてるので、そこで出会うことについてもっと学び、深めたいという学問だからです。祈りの生活、礼拝の生活に直結した事柄に取り組みますから、やる意義がはっきりすると思います。そして、実践神学の成果が具体的な実践に活かされていくので、信仰を支え、深めることに繋がる学問であることが強みだと思います。弱点はその裏返しで、ハウツーに終わってしまうことです。例えば、葬儀でもカウンセリングでも、本当の意味での神学ではなく、人間の知恵や技術だけに終わってしまう、そのような危険性があると思います。東神大は実践神学が弱いと言われることがあります。でも、それは捉え方が十分でないところがあって、東神大の神学は教会で生きること根差した神学です。いつも教会に仕えること、伝道に仕えることを目指している神学です。ですから、私たちが神様を信じることと、分裂したところがありません。信じている通りに神学的な探求をすることによって信仰が強められる、本当に幸いな営みだと感じます。ですから、実践神学というよりは、ぜひ東神大で学んでいただきたいと思います。

中野 聖書神学の強みと弱点はどのような点がありますか。

矢田 聖書神学の強みは、聖書の言葉そのものの中に見つけた証拠に基づいて論を進める分野であることです。信仰の源であり、教会の土台である聖書の言葉そのものに向かって向き合い続けられます。弱点は、聖書解釈を点検するという目的から、それまで信仰的だと思われてきた解釈に縛られないことを心掛けるので、旧新約聖書66巻全体が聖書であることを忘れたまま出て来た結論に惑わされやすいことです。この弱点については、常に全体を意識する組織神学と一緒にしっかり学ぶことで避けることができると考えています。聖書神学は、特に原語の言い回しに注目して、歴史的背景も考えつつ聖書を読むと、翻訳では気づかなかった嬉しいメッセージに出会えることがよくあります。

中野 歴史神学の長所と短所について、本城先生はどのように考えますか。

本城 歴史神学の長所は、その時代にどっぷりと浸かれるということだと思います。歴史神学では、一次史料、つまり当時の生の史料を何よりも大事にします。史料を読む際には、自分の理解に照らして読み込まないように留意しながら、その史料を書いた人が何と言っているのか、当時の人たちがどう考えているのかといったことにどっぷり浸かって読んでいきます。そうすると、その時代の人たちの息遣いなどが、よく分かってくると思うんです。私は博士論文でテルトゥリアヌスという神学者について書きましたが、史料を読んでいるうちに、彼の性格や気質だけで

なく、カルタゴという北アフリカの町に住んでいた人たちの気質や息遣いまでもが分かるようになりました。このように、歴史神学の長所は、その時代にどっぷり浸かることができることです。短所は、それと裏返しのところがありますけれども、一次史料を読むためには、学ばないといけない言語があるということです。テーマによっては日本語だけで完結することもあるかもしれませんが、多くの場合、外国語で史料を読まなければなりません。歴史神学には、史料を読む大変さがあります。ただ、コインの表と裏のように、読めたときの苦労はありますが、喜びというのはとても大きいと思います。

須田 本城先生のお話を伺って、組織神学のもう一つの短所に気づきました。それは、組織神学は時に歴史的な文脈から切り離してしまうことがあるとい

うことです。例えば、私の研究テーマの一つは17世紀ピューリタンのジョン・オーウェンですが、興味があるのは、オーウェンが信仰義認をどう語っているか、その信仰義認の説明は論理的に全体と整合性があるかということです。しかし、オーウェンの信仰義認論の背景には、宗教改革以来のイングランドの教会や神学議論の流れの文脈があるはずなんです。組織神学では、そこを切り離してしまうので、批判を浴びることもあります。

本城 歴史神学も、歴史にどっぷりはまってしまうと、組織神学的な問いや、聖書をきちんと読むことが、疎かになってしまう面もあるかもしれません。

中野 専門分野だけでなく全体を学び、それぞれの弱点も踏まえたうえで全体の視点を身に付けることができます。それが東京神学大学ということですね。



教員紹介

聖書神学

聖書は人間の言葉に表された神の言葉です。神学はいつでも聖書の言葉に聞くことを土台にします。聖書神学は、聖書テキストが本来どのような歴史の中で何を告げようとしていたのかを明らかにしながら、私たち自身の聖書解釈を吟味するための学問分野です。

なかのみのる
中野 実 教授

教会の信仰の土台は聖書（旧約・新約）です。自らの聖書理解を、歴史的、文学的、神学的視点で吟味、点検するのが、聖書神学という学問分野です。一緒に学んでみませんか。

【研究テーマ】ヘブライ書、史的イエス、福音書、聖書の正典性に関する研究をしています。

【主な担当科目】ギリシャ語Ⅰ・Ⅱ、新約聖書神学Ⅰ・Ⅱ



たなか ひかる
田中 光 教授

旧約聖書の学びは、すべての神学の部門の基礎となる学びです。ぜひ、旧約聖書を学んで、その無尽蔵の恵みに、共にあずかりましょう。

【研究テーマ】詩編、原初史（創世記Ⅰ-Ⅱ章）、イスラエル古代史、聖書解釈史

【主な担当科目】旧約聖書神学Ⅰ・Ⅳ、イスラエル古代史



かわの かつや
河野 克也 特任准教授

新約聖書は真空状態ではなく、具体的な歴史的状況の中で書かれた文書集です。それぞれのコンテクストの中で各書の固有の声を聴く耳を丁寧に育てましょう。

【研究テーマ】新約聖書神学、パウロ思想、初期ユダヤ教黙示思想、物語批評、共観福音書問題

【主な担当科目】新約聖書神学Ⅲ・Ⅳ、新約聖書釈義、新約聖書学特研Ⅰ



やだ ようこ
矢田 洋子 特任常勤講師

原語の言い回しに注目し、文書の歴史背景を考慮しつつ旧約聖書を読むと、それまで気づかなかった嬉しいメッセージに出会えることがよくあります。一緒にしませんか。

【研究テーマ】ダニエル書と祭儀の関係、ダニエル書の二言語性、旧約聖書の時間概念

【主な担当科目】旧約聖書神学Ⅲ、旧約聖書学演習Ⅰ・Ⅱ



みやざき かおる
宮崎 薫 特任常勤講師

旧約聖書は古くて新しい。多様で豊かで奥深い。人間とは何かを知るうえで重要な歴史/文学書です。まずは一緒に、生ける神の文字ヒブル語の学びを始めませんか。

【研究テーマ】イスラエル12部族についての研究、旧約の物語を歴史的・文芸学的に探求し読み解くこと

【主な担当科目】ヒブル語Ⅰ・Ⅱ、旧約聖書神学Ⅱ、旧約聖書原典講読Ⅰ



組織神学

組織神学は、キリスト教の信仰内容を現代の文脈に即して捉え直し、理解を深めていく学問で、「教義学」・「倫理学」・「弁証学」からなります。伝道者に必要なことは、統合的な信仰の深い見識と、それに裏付けられた確信です。組織神学はまた教会の自己吟味として実践神学に論理的土台を提供します。

こうじろ まさみ
神代 真砂実 教授

古代より、神学は祈りから出発して、信仰の土台にある神の恵みに思いをめぐらせ、神を賛美するに至るものと言われています。このすばらしい学問をぜひ一緒に。

【研究テーマ】三位一体論、信仰と信じること一般の関係、カール・バルトの神学

【主な担当科目】神学通論、組織神学Ⅱ、組織神学演習Ⅱ



すだ たく
須田 拓 教授

組織神学は、私たちが何をどのように信じているのかを論理的に説明する学問です。救いを深く理解し、生き生きと福音を宣べ伝えていくために、一緒に学びましょう。

【研究テーマ】教義学全般、特に教会論や救済論、17世紀ピューリタン神学の現代における意義

【主な担当科目】組織神学Ⅲ、組織神学学部演習、組織神学特講Ⅰ・Ⅱ



は が つとむ
芳賀 力 特任教授

私たちはキリスト教的<信>の担い手とされています。その信仰内容を体系的に考察し、信仰理解をさらに深めることに努めています。

【研究テーマ】聖書の宗教の持つ思想内容を現代社会の中で捉え直し、伝統的教理を物語論の手法を用いて再活性化。

【主な担当科目】組織神学Ⅰ、組織神学演習Ⅰ



歴史神学

歴史神学は、キリスト教会と教会の教え（教理）の歴史を学びます。ギリシャ語やラテン語、また現代の諸言語で書かれた史料を読み解き、史料が書かれた歴史や出来事の相互関係、文化の脈絡を探ることで、何が起き、それにどのような意味があるのかが明らかになっていきます。

ほんじょう こうた
本城 仰太 准教授

歴史神学の学びは、当時の生の史料を読み、神学的に出来事を把握していきます。それによって、過去だけでなく、現在と将来をより深く考えられるようになります。

【研究テーマ】ラテン教父の神学、使徒信条をはじめとする信条成立史、信条と教理の関係

【主な担当科目】教会史Ⅰ～Ⅲ、教理史Ⅰ、教理史演習Ⅰ・Ⅱ



いいだ あおぐ
飯田 仰 助教

歴史神学の学びは地道な探究の営みですが、大変奥深いものです。聖書を片手に、教会の歴史と神学の検証を試みつつ、教会の伝道のために、共に神学を深めましょう。

【研究テーマ】カパドキア教父（特にカエサルアのバシレイオス）、ジャン・カルヴァンの古代教父理解

【主な担当科目】歴史神学学部演習



実践神学

牧師の務めは、神様の実践に参加させていただくことです。神様の実践、すなわち人間が神様の道具として用いられるために、「説教学」・「礼拝学」・「牧会学」・「キリスト教教育学」を学びます。神学諸科を一つの伝道学として統合する働きをするのが実践神学です。

ウェイン ジャンセン
Wayne Jansen 教授

神学の学びとは神様を機械的に理解する手順の学びではありません。自らと神様の関係や自分と隣人との関係を知ることであり、神様に愛されていることを確信できる喜びの歩みです。

【研究テーマ】多様性のある世界を認めるキリスト者の存在、LGBTQ+の方々を認める教会

【主な担当科目】教会実習Ⅰ・Ⅱ、牧会心理学、臨床牧会教育



こいずみ けん
小泉 健 教授

東京神学大学の神学は、生きておられる神をあがめ、教会に仕え、伝道を励ます神学です。神学の営みすべてが実践神学において統合され、実践に用いられます。

【研究テーマ】説教が神の言葉への奉仕でありつつ、いかにして人の魂に届く言葉となるか。

【主な担当科目】実践神学概論、説教学入門、説教学演習Ⅰ・Ⅱ



ながやま みち
長山 道 教授

自身の信仰生活にも、伝道にも、教会での奉仕にも、キリスト教教育の学びは重要です。また、キリスト教学校と連携し、教務教師の養成にも力を入れています。

【研究テーマ】信仰が人格形成にどのように関わるのか、キリスト教教育の意義と役割を考えています。

【主な担当科目】キリスト教教育概論、キリスト教教育特講



パク ホンウク
朴 憲郁 特任教授

神学には専攻諸分野がありますが、最終的にそれらが生きた神学として発揮される場合は、学会ではなく教会の実践的営みです。それを自覚的に引き受けた分野が実践神学です。

【研究テーマ】キリスト教の人間形成・人格陶冶が、キリスト信仰によってどう引き起こされるのかを明らかにする。

【主な担当科目】アジア伝道論演習、キリスト教教育特研



学びの特徴

伝道者養成のための召命共同体

東京神学大学は、キリスト教の伝道者を養成する神学専門の単科大学です。教会・キリスト教学校・キリスト教関係の施設（病院等）で牧師・教師・チャプレンとして働く伝道者を養成することを使命としています。そのために、東京神学大学は、学部から大学院の博士課程前期課程までの一貫した神学教育プログラムを提供しています。東京神学大学は「召命共同体」として、教員も学生も神の呼び出しに応えるために、常に自らの召命を神の前に問いつつ、授業と研究はもちろん、毎日の礼拝やクラスごとの祈禱会を通して、生きた神学の研鑽に励んでいます。



教会と東京神学大学は車の両輪



東京神学大学は、日本のプロテスタント諸教会の良き神学教育の伝統を引き継ぐ大学として、多くの教会によって支えられています。例えば、神学生が必要とする経費のうち、およそ半分は全国の諸教会およびそこに属する信徒の方々からの献金によるものです。このような意味で、東京神学大学は教会による、教会のための大学です。それゆえ、神学生にとって教会生活は大学での学びと並んで重要です。神学生はそれぞれの教会に属しながら、牧師の指導のもと教会に仕えることを学びます。東京神学大学と教会はいわば「車の両輪」として共に協力しながら、伝道者の育成に努めています。

キリスト教学校の伝道者を育成

現在日本では、毎年のべ50万人ほどの子どもたち・学生たちがキリスト教学校を卒業すると言われています。そのほとんどは、学校で初めてキリスト教に出会った人たちです。日本のキリスト者人口が100万人ほどであることを考え合わせると、キリスト教学校の働きが日本伝道にとっていかに大きな可能性を秘めているかがよく分かるでしょう。学校礼拝や聖書の授業を通して福音に出会うことが、子どもたちの生涯にわたって豊かに実を結んでいます。このかけがえのない務めのために、これからもキリスト教学校の建学の精神を担う教師が、ぜひとも必要です。

東京神学大学では、神学の研鑽と並行して教職課程を履修し、中学校・高等学校での宗教科の教育職員免許状（一種・専修）を取得することができます。聖書科・宗教科教師（教務教師）として学校に遣わされる場合はもちろん、牧師として教会に仕える場合でも、付属幼稚園やこども園の園長、近隣のキリスト教学校の非常勤講師となるよう求められることは少なく

ありません。その際に、この免許状が資格要件として有効に用いられます。これまでに教育職員免許状を取得した卒業生の多くは、教会とキリスト教学校との良い協力関係を築き、両方の場において伝道、牧会、教育に貢献してきました。キリスト教学校や教師の働きについて学びを深めるための課外プログラムも、豊富に用意されています。経験豊かな講師陣により、福音信仰に立つキリスト教教育を学んでみませんか。



福音に立つ教員を養成する

教授 長山 道

キリスト教学校に仕えるためには、宗教科の教育職員免許状が必要です。宗教科の免許状を取得することができる大学は、他の教科に比べて非常に限られていますが、その中でも東京神学大学は、明確に福音主義に立つキリスト教教育を志す教師を養成するという特色を持っています。

神学の科目と同じように、教職課程の科目もすべて、長年キリスト教学校と教会に仕えてきた経験豊かなキリスト者が講師として指導しています。ですから、ただ聖書やキリスト教の知識を教えるだけでなく、生徒たちの全人格を形成する、キリスト教学校全体の土台としてのキリスト教教育を、具体的・実践的に学ぶことができます。

キリスト教学校の多くは、聖書科の授業を受け持つ一教員としてだけでなく、学校礼拝やキリスト教行事の責任を負い、生徒たちや教職員、保護者の牧会をする、牧師としての働きができる教師を求めています。ですから東京神学大学では、単に資格を取得した教員ではなく、教会と同じようにキリスト教学校にも、福音を伝える伝道者を養成し派遣することをとても大切にしています。

学校伝道は教会とは違った仕方ではなされますが、そのための理解と意欲をより深める課外活動も充実しています。いろいろなキリスト教学校を訪問、見学させていただいたり、リラックスした雰囲気の中で先輩にあたる先生方のお話を聴いたり、質問したりできるのも、多くの優れた教師を輩出してきたこの大学ならではの



学生たちとキリスト教学校を訪ねて

神学研修志望

本学では、伝道献身者としての召命を与えられた方だけでなく、信徒として教会により深くお仕えするという召命が与えられた方も、「神学研修志望」という枠で、神学の学びをすることができます。神学研修志望枠に出願するためには、洗礼を受けてから一年以上経過していること、教会からの推薦を得ること、といった条件が満たされる必要があります。入学者選抜の内容に区別はなく、志願者の方は、入学者選抜（1年次から入学するための試験で、2月、3月に実施）あるいは編入学者選抜（3年次から入学するための試験で、11月、2月、3月に実施）を受験することになります。

Graduates’ interview



2020年度 神学部神学科 卒業
日本基督教団 橋本教会員
川合 重貞

入学したきっかけは何ですか？

たまたま東神大に通えるところに移り住んだこと、家族の理解を得たこと、経済的に多少ゆとりがあったこと、70代でも体力には自信があったことなど諸条件が備わったこともあります。何よりも牧師として召されようとしている学生と一緒に聖書や神学を基礎から学びたいという願いが勝ったことが、決断のきっかけとなりました。

印象に残っている学びは何ですか？

殊に印象深いのは教会史の学びです。古代から近代までの教会史上の事件や歴代の神学者の特徴など中身が多く、年を重ねた自分にとっては骨の折れることでした。しかし、過去の歴史を学ぶことを通じて、血と汗を流したイエスの証人たちの豊かな遺産をいただく幸せな立場にいることに気づかされました。

東神大での思い出は何ですか？

休み時間にコーヒーを飲んだり、お弁当を食べたりしながら先輩や後輩と授業のことなど種々の情報を交換したことが楽しく思い出されます。4年生の時はコロナ禍でオンライン授業を余儀なくされましたが、週に一日は通学し、対面授業を受けることができたのは救いでした。

現在の教会生活は、いかがですか？

卒業後は、会堂清掃や書記・営繕担当役員としての奉仕に加え、隔月に一回の祈祷会の聖書研究を任されるようになりました。東神大で学んだ知識のおかげで聖書研究の理解が深まり、励みになっています。一信徒として伝道の働きを模索しつつ、ささやかでもできることをしていきたいと願っています。

最後にメッセージをお願いします。

私の場合は条件が揃ったうえで入学を決断したのですが、皆さんの神学を深く学ぼうとする熱量が大きければ条件の一つや二つが欠けていても、これを超えて決断できるものと思います。入学を躊躇していたり、検討したりしている方が、決断されるよう願っています。

入学後は、伝道献身志望で入学した学生と同様の科目を履修しますが、神学研修志望では学部までの学びとなり、大学院へ進むことはできません。しかし、在学中に伝道献身者としての召命が与えられ、必要な手続きを経て、伝道献身志望への変更が認められた場合には、大学院まで進むことが可能です。

神学研修志望での学びは、伝道献身志望の学生と共に机を並べて学び、召命共同体の中で過ごすことができるという意味で、大きな恵みです。皆さんの中に、教会のために、信徒としてより深くお仕えしたいという思いをお持ちの方がおられれば、ぜひ一度、神学研修志望での受験をお考えください。



2020年度 神学部神学科 卒業
日本基督教団 橋本教会員
平野 修

自分の性格や生活を考えて神学校入学に踏み出せずにいましたが、牧師を目指さない人間でも入学できることを知り、ハードルが大きく下がりました。まだまだ働き続けられる状況でしたが、健康なうちにやるべきことの一番は神学の学びだと思い、入学しました。

すべての学びが新鮮で面白く、学ぶ喜びを味わいました。ギリシャ語の単位を修得するのは老化した脳には大変でしたが、先生からの励まし、先輩からの応援、クラスメイトとの学び合いのおかげで乗り越えられました。今思うとクラスを団結させてくれた良き学びでした。

少人数での学びが多い分、年齢も経歴も異なる学友とのふれ合いも深くなります。礼拝、クラス祈祷会、全学修養会、学生会、食事や通学時のやり取りまで、そのすべてが良き信仰の養いの時だと感じました。先生方のすばらしさ以上に、学友とのふれ合いが一番の宝だと感じました。

CS説教、祈祷会奨励、ギリシャ語勉強会などを担っています。必要に応じてギリシャ語の聖書を確認して解釈ができるので、自信を持って話しています。調べ方を教わり、資料も手近にあるので、自力で学べる喜びを味わっています。

神学研修志望での二年間は濃密で、確実に人間と信仰を育て、人生を変えます。人それぞれに与えられた役割があり、相応しいやり方で神を賛美し、伝道すべきでしょう。牧師にならなくとも、牧師を助ける人間も教会には必要です。神学を深めたい人はこの制度を使わない手はないでしょう。

日本基督教団以外の教団・教派との関わり

本学は、日本基督教団の教職を養成することを重要な責務としていますが、しかしそれだけではなく、世界中の聖なる公同の教会に仕えるために、神学研究と教育を行なってもいます。その意味で、日本基督教団以外の、福音主義に立つ教団・教派の方たちをお迎えして、共に神学を学び、またコミュニティを形成することを、非常に重要な営みと捉えています。本学には毎年、そうした学生が入学し、共に学び生活する

恵みが与えられています。その割合は、最近では、学部生の四分の一ほどにもなります。本学で学んだ後、卒業生の多くは、自分の教団・教派に戻られ、それぞれに主の御用にあっておられます。そのような卒業生が全国至るところに与えられていることは、本学の誇りです。これからもこうした交流が続き、益々盛んになることを願っています。

Student’s voice

東神大での学びについて他教派の立場から

2024年度 博士課程前期課程2年
イムマヌエル綜合伝道団 立川キリスト教会員 杉田 流司

様々な教派に開かれた学びが、東神大の魅力だと思います。もともと、東神大の先生方は、改革派やメソジスト、ルター派などの幾つかの教会から来られていました。さらに近年では、他教派の教会からの講師の先生方も多く、学びには十分な彩りと多角的な視点があります。

また、厚重な内容の学びそのものも魅力です。使命をもって神学研究に取り組む先生方と仲間たちと、イエス様について、教会や信仰について語り合うときは感謝なときです。どの教派にも欠かせない、日本のプロテスタント教会の伝統を丁寧に学ぶことができます。

このような学びの機会が備えられているのは、東神大が長い間、日本全国の教会と密接に結ばれ続けており、今日ではさらにその結びつきが広がっているからだだと思います。どの教派にも、おひとりの主から与えられた特別な役割があるはずで。皆さんに与えられた特別な役割とは何なのか、この東神大で一緒に考えてみませんか。



Graduate’s voice



PROFILE

1999年度 博士課程前期課程修了。日本バプテスト同盟関東学院教会牧師。関東学院六浦小学校・関東学院六浦中学高等学校聖書科非常勤講師。

学びと出会い

日本バプテスト同盟 関東学院教会牧師 高橋 彰

「あなたはバプテストなのだからこれを読んで考えてみなさい」。編入学直後、熊澤義宣先生が『いと小さき者の信仰告白』という論文の抜き刷りを私にくださいました。これが、私がバプテストであることを問われ、ここで「神学する」ことの意味を考えるきっかけでした。神学することと教会生活は不可分です。教会実習は自分の教派の教会で行ないました。寮生活や学校の活動にも積極的に参加しました。東京神学大学は様々な教派の信徒に門戸が開かれています。多様な信仰背景を持つ友との繋がりが今、私を支えています。

キリスト教学校である高校入学が私のキリスト教との出会いでした。献身を志した時に「宗教科の教員免許を取得し、学校で教え、生徒を教会へと招きたい」という思いも与えられ東京神学大学編入学へと導かれました。キリスト教教育学を専攻しました。

現在、日本バプテスト同盟関東学院教会牧師として、さらに関東学院六浦小学校・中高で聖書科講師として働いています。学びと出会いによって道が開かれたことに心から感謝しています。

CAMPUS LIFE

東京神学大学は大学であると同時に「神学校」で、信仰と志を同じくする召命共同体です。
神学校ならではのキャンパスライフの特徴を、神学生の声と共に紹介します。

FEATURES

キャンパスライフ 5つの特徴

01 礼拝

学内礼拝では学生と教員が共に祈りを合わせ、主を賛美し、そして説教者を通して主から御言葉を聴きます。学生が教員から説教を聴く時、そこには将来の伝道者を志す者としての学びの一面もあります。しかし東神大での学内礼拝はそれがすべてではありません。学生も時に説教奉仕を担当し、礼拝者一同が共に主の御言葉に聴き、共に主を賛美する恵みにあずかります。主から与えられた召命を確認しつつも、時に日々の学業、様々な悩み、疲れを、礼拝を通して主に委ねる得難い時を与えられていると感じています。将来の伝道者への志を養われる場でもあると思っています。

2024年度 博士課程前期課程1年 三永 信泰



02 教会生活

私は、受洗教会から、今も神学校へと送り出していただいています。献身の歩みが主の御心であることを一緒に信じてくださり、祈り支えてくださっていることの大きさに、これまで何度も驚かされ、慰められてきました。教会では、礼拝、祈祷会、教会学校で与えられる御言葉により、新たに生かされています。また、各委員会や具体的な歩みの中で、御心を探ね祈りつつ進んでいく主の家族の歩みに加えられています。「見よ、兄弟が共に座っている。なんという恵み、なんという喜び」(詩編133:1)との御言葉を繰り返し味わわせていただき、神様が今も生きて働いておられるとの喜びをいただいています。

2024年度 博士課程前期課程1年 小林 光恵



03 学生寮

東京神学大学の学生寮は自治寮です。自分たちで会計を管理し、規則を制定し、それを互いに守りながら生活しています。それは将来教会に仕える者としての訓練の場としても、この学生寮が用いられているからです。共同生活には様々な問題が生じますが、それを祈りをもって解決していくことが、伝道者の形成に役立っています。また校舎の隣という立地、完全個室、各地の教会の支えによる格安の寮費など、学びに集中できる環境が用意されています。寮生同士の教え合いや、書籍の貸し借りなども活発です。ひとりで学ぶよりも、より実りある学びができることが寮の魅力の一つでもあります。

2024年度 博士課程前期課程1年 吉岡 優介



04 クラスの交わり

クラスを形づくっている仲間たちは、一人一人が本当に個性豊かで、様々な背景を持っています。関係を築きやすく、深めやすい環境があるからこそ、そのことがよく分かります。年齢や出身、趣味に性格、人それぞれ異なるものばかりの中で、神様から信仰を与えられていること、伝道のために召されていることは、皆まったく同じです。そのような仲間たちと過ごせる日々そのものが、献身を許された者としての成長の機会でもあります。週の始まりにクラス別祈祷会で互いに祈り合い、喜びも課題も分かち合えることは、学びの歩みにおいて、大きな恵みの一つであると実感しています。

2024年度 神学部神学科3年 山本 愛



05 留学生

私は大学に入学する前に言語・文化の違いに最も不安を感じていました。しかし、日本語の授業、担任面接、留学生懇談会などを通じて言語・文化について丁寧に学ぶことができ、不安もなくなりました。また、東京神学大学は主イエスにおいて一つという信仰の下に集まっている召命共同体です。そのため、国籍や言葉や文化などの違いを超えて、互いに助け合い、励まし合う交わりの環境が整えられています。このような素敵なキャンパスライフを通じて、さらに日本伝道に相応しい伝道者になれるのではないかと思います。

キム ギュシク
2024年度 博士課程前期課程2年 金 奎植



4月 APR.

- 入学式・オリエンテーション
- 前期始業式・始業講演
- 神学校全学集会
- クラス別懇談会

5月 MAY

- 全学懇談会
- 学生総会
- 生活倫理講座1
- 運動会
- キリスト教学校伝道協議会

6月 JUN.

- 日本伝道フォーラム
- 全学祈祷会
- 博士課程後期課程研究発表会

7月 JUL.

- 夏期伝道実習壮行祈祷会
- 入試説明会

8月 AUG.

- 夏期伝道実習

9月 SEP.

- 修士論文提出締切
- 後期始業式・始業講演
- 日本伝道を担う青年の集い

10月 OCT.

- 夏期伝道実習報告会
- 神学校日

11月 NOV.

- 全学修養会
- 生活倫理講座2
- 神学校生活懇談会

12月 DEC.

- オープンキャンパス
- クリスマス礼拝
- クリスマス愛餐会

1月 JAN.

- 教職セミナー
- 全学祈祷会
- 学生総会

2月 FEB.

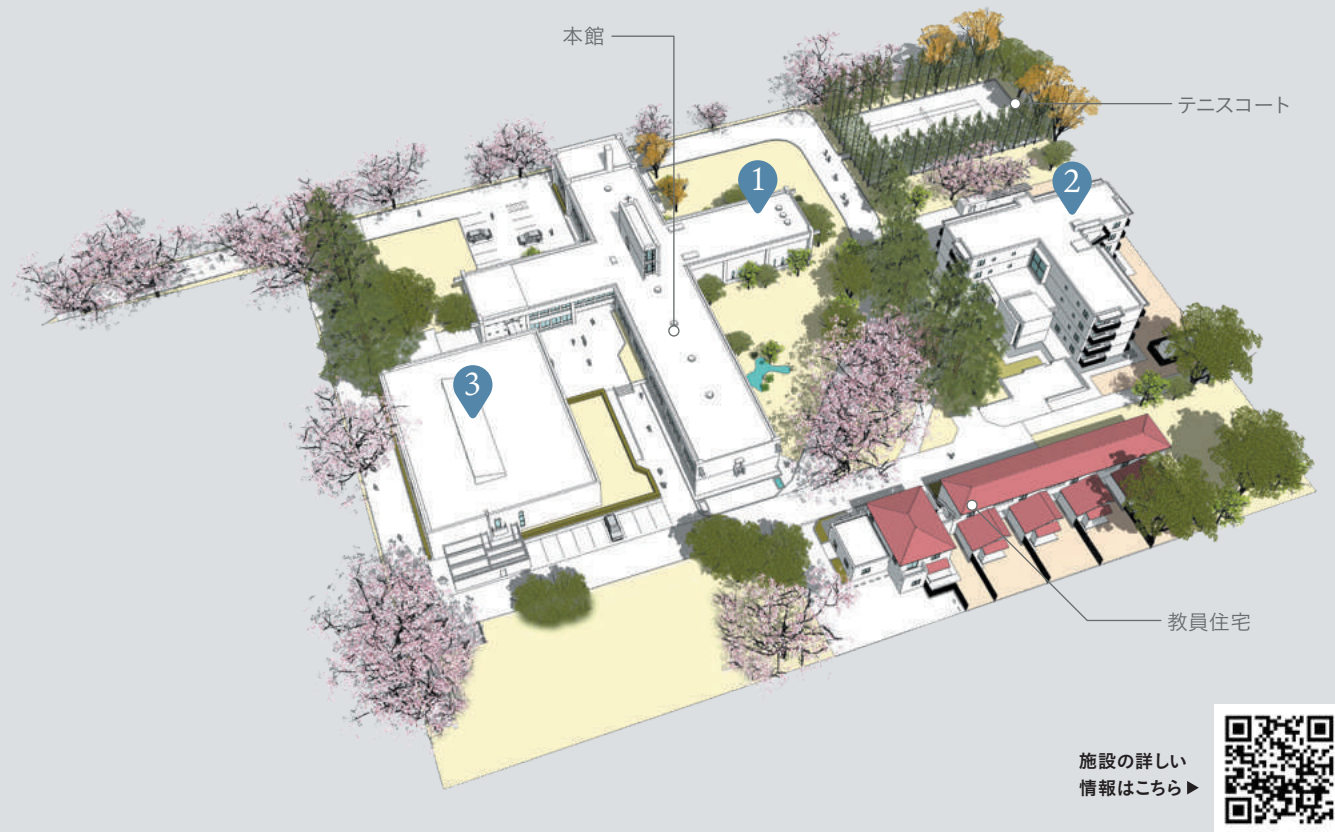
- 大学院博士課程前期課程・博士課程後期課程内部入学者選抜
- アジア伝道研修旅行(隔年)

3月 MAR.

- 卒業礼拝
- 卒業・修了式学位授与式

CAMPUS MAP

東京神学大学は都心を少し離れた武蔵野の自然の中にあり、神学生は緑豊かで閑静なキャンパスで学んでいます。国際基督教大学・ルーテル学院大学と敷地を接しており、それらの大学の図書館等の施設を利用することができます。

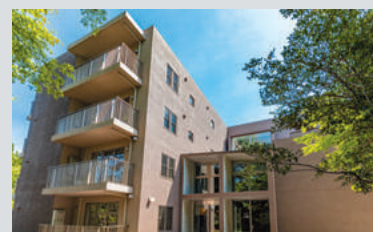


1 礼拝堂

神学校生活の要である礼拝が守られるところです。クリスマス礼拝や卒業礼拝では、共に聖餐にあずかります。入学式や卒業式等の行事も、この礼拝堂で執り行なわれます。

2 学生寮

学生の約半数が寮で共同生活をしており、運営は寮生が担っています。毎朝行なわれる寮拝や日々の生活を通して交わりが深まります。



3 図書館

東京神学大学の図書館には、和書50,000冊、洋書77,000冊、計127,000冊ものキリスト教神学専門書が所蔵されています。プロテスタント神学を先導してきた英語圏・ドイツ語圏の洋書も可能な限り備えられており、その数は和書よりも多いほどです。神学の専門雑誌は、英語圏・ドイツ語圏、種々合わせると1,000点以上になります。神学を研鑽するうえで最良の研究環境と言っても過言ではなく、キリスト教の情報センターとして、学外の研究者にも多く利用されています。



データで見る東京神学大学

後援会活動

600を超える教会、5,000を超える信徒の方々に支えられた大学

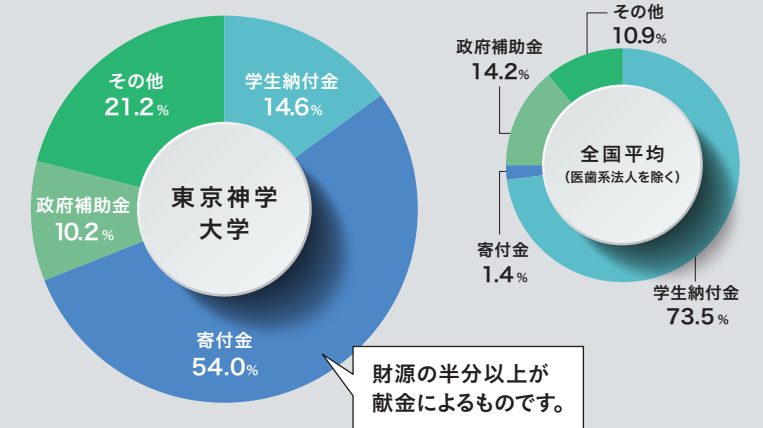
東京神学大学では、全国24地区、39地域で後援会が組織され、教会・信徒の方々へ献金によるお支払いをお願いし、毎年600を超える教会、5,000名を超える方々にご賛同いただいています。また、関連諸団体やキリスト教学校からも献金がさげられています。



支援拡大に向けてのお願い

東京神学大学のために祈ってください。
将来、伝道者となる献身者を送ってください。
東京神学大学を献金で支えてください。

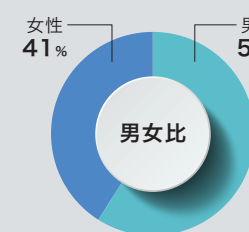
≫ 私立大学経常収入の比較



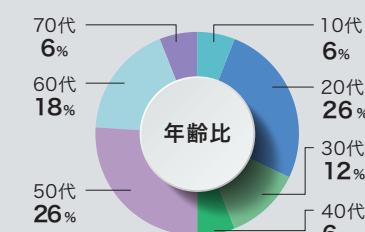
一般的な大学は、収入の大部分が学生納付金で賄われますが、東京神学大学の場合、教育研究費・奨学金等の財源の半分以上を献金が占め、財政が支えられています。そのような東京神学大学を支えるために、1960年代から後援会活動が始まり、現在では全国で39の後援会が活動しています。神学校日を中心に、全国で後援会主催の公開講演会が開かれています。教員による講演や大学の現状の説明が行なわれ、全国の信徒の方々との交わりのときとなっています。

※東京神学大学「2022年度決算」および『令和5年版今日の私学財政』より

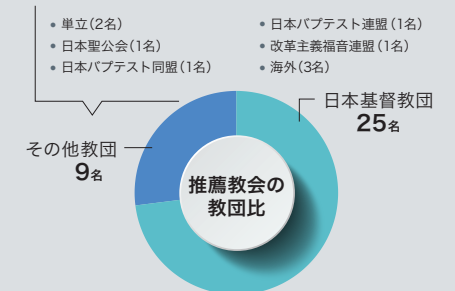
2023年度学部生の状況 (2023年5月1日現在)



女子神学生の存在感が増しています。



年齢層も幅広くバックグラウンドも多様です。



教派の違いが学びを豊かにしています。

卒業生の赴任状況

大学院博士課程前期課程修了生は、全国の教会やキリスト教学校等の任地へ赴きます。

